

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
療養支援看護学特論	1年次・前期	2単位 (選択)	稲垣美紀、森谷利香、 松田千登勢、竹下裕子 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

様々な場で療養生活をおくる人々とその家族を理解し、専門的な看護援助、健康の増進と健康に関する課題を取り上げる。それらに対応する概念、看護理論を学修し、文献および実践事例等を通して、看護の在り方を探求する。

【到達目標】

- ① 療養生活をおくる人々と家族における、看護援助、健康の増進と健康に関する課題を明らかにすることができる。
- ② 関係する概念、理論について理解を深め、看護への適用を考察する。
- ③ 療養生活をおくる人々と家族への看護活動に対して、看護の在り方、看護職の役割を考察することができる。

【授業方法】

原則として、授業計画に基づく授業を展開する。文献検討、プレゼンテーション、討議のすべてにおいて主体的に学修する。既習の理論やエビデンスについて文献検討を行う。文献検討に使用する文献は、最新かつ質の高いものを選び、また事例検討は学生の経験に基づくものとし、その理解を助ける。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	療養生活をおくる人々への理解	授業オリエンテーションおよび療養生活支援看護における既習の理論やエビデンスを活用し、文献および事例検討のために必要な視点について検討する。(担当：松田)
第2回	様々な場で療養する高齢者と看護の理解	様々な場で療養する高齢者への理解および看護活動と看護師の役割について理解を深める。(担当：松田)
第3回	様々な場で療養する高齢者への関係する理論の理解	高齢者看護に関係する理論について文献検討する。 (ストレンクス理論、コンフォート理論など) (担当：松田)
第4回	様々な場で療養する高齢者への関係する理論の活用	高齢者看護の課題を取り上げ、理論を活用しながら事例検討する。 (担当：松田)
第5回	急性・重症患者や周術期患者と看護の理解	急性・重症患者や周術期患者の理解および看護師の役割について、理解を深める。 (担当：稲垣)
第6回	急性・重症患者や周術期患者に関係する理論の理解	急性・重症患者や周術期患者に関係する理論について文献検討する。 (危機理論、ストレス・コーピング理論など) (担当：稲垣)
第7回	急性・重症患者や周術期患者に関係する理論の活用	急性・重症患者や周術期患者への看護の課題を取り上げ、理論を活用しながら事例検討する。(担当：稲垣)
第8回	慢性病をもつ人々と看護の理解	慢性病をもつ人々の理解および看護の役割について、理解を深める。 (担当：森谷)
第9回	慢性病をもつ人々に関係する理論の理解	慢性病をもつ人々の理解や看護に有用な理論について文献検討する。 (自己効力、エンパワメント、成人学習理論など) (担当：森谷)
第10回	慢性病をもつ人々に関係する理論の活用	慢性病をもつ人々への看護の課題を取り上げ、理論を活用しながら事例検討する。 (担当：森谷)
第11回	がん・終末期患者と看護の理解	がん・終末期患者の理解および看護師の役割について、理解を深める。(担当：竹下)
第12回	がん・終末期患者に関係する理論の理解	がん・終末期患者に関係する理論について文献検討する。 (移行理論、Whole Person Care 理論など) (担当：竹下)
第13回	がん・終末期患者に関係する理論の活用	がん・終末期患者への看護の課題を取り上げ、理論を活用しながら事例検討する。 (担当：竹下)
第14回	まとめ	療養生活をおくる人々・家族への看護に対して、理論等を用いた文献検討や事例検討を通して、学生各自がプレゼンテーションする。(担当：松田、稲垣、森谷、竹下)
第15回	まとめ	療養生活をおくる人々・家族への看護の今後の課題および展望についての発表に基づき討議する。(担当：松田、稲垣、森谷、竹下)
【事前・事後学習課題】		
学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点を持ち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。		
「定期試験は実施しない」		

【評価方法（基準）】

参加態度、プレゼンテーション、討議内容、レポートなどを総合して評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業にて適宜紹介する		
参考書	授業にて適宜紹介する		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
療養支援看護学演習	1年次・後期	2単位 (選択)	稲垣美紀、森谷利香、松田千登勢、 稲垣範子、村瀬由貴、竹下裕子 (担当形態：複数)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

療養生活を送る人々、家族が経験する健康問題、健康課題を文献によって明らかにし、それらの課題に対する支援方法および評価方法を検討する。関心のあるテーマやテーマに関する疑問を明確にしてフィールドワーク・実習を行い、療養する人々とその家族におきる現象を把握する。これらをもとに、対象者が抱える困難や問題を社会情勢などの背景もふまえ、関連する様々な概念や理論を用いて深く思索し、研究課題を明確にする。

【到達目標】

- ① 各学生の関心領域に関する研究疑問をプレゼンテーションできる。
- ② 研究疑問にそったフィールドワーク・実習を計画し、実施できる。
- ③ 文献検討、フィールドワーク・実習から得た成果から得た見解をまとめ、明確化した研究課題についてプレゼンテーションできる。

【授業方法】

原則として、授業計画に基づく授業を展開する。文献検討、プレゼンテーション、討議のすべてにおいて主体的に学修する。フィールドワーク・実習は、協力機関の指導の下、主に臨地とするが、リモートで行う活動も含むものとする。第1回、第14回、第15回は複数教員での授業、第3回～第13回は指導教員によるクラスごとに授業を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	研究疑問の発表	履修者自身の経験から、関心のあるテーマや領域についてプレゼンテーションを行う。
第2回	研究疑問に関する文献検討①	関心のあるテーマや領域の論文を検索し、論文の紹介と討議を行う。
第3回	研究疑問に関する文献検討②	関心のあるテーマに近似する概念について、論文の紹介と討議を行う。
第4回	フィールドワーク・実習計画書の作成①	これまでの経験や文献検討をもとに関心のあるテーマに関するフィールドワーク・実習計画書を作成する。
第5回	フィールドワーク・実習計画書の作成②	作成したフィールドワーク・実習計画書のプレゼンテーションと討議を行う。
第6回	フィールドワーク・実習①	計画したフィールドワーク・実習を行う。
第7回	フィールドワーク・実習②	計画したフィールドワーク・実習を行う。
第8回	フィールドワーク・実習③	計画したフィールドワーク・実習を行う。
第9回	フィールドワーク・実習④	計画したフィールドワーク・実習を行う。
第10回	フィールドワーク・実習の成果の報告	作成した資料をもとに成果をプレゼンテーションし、討議する。
第11回	研究課題の明確化①	フィールドワークや実習の成果を活かして、自身の関心のあるテーマを深め、文献レビューを行い、研究課題に関するプレゼンテーションを行う。
第12回	研究課題の明確化②	研究課題に関する主要な論文について、クリティークし、プレゼンテーションする。
第13回	研究課題の明確化③	研究課題に関する主要な論文について、クリティークし、プレゼンテーションする。
第14回	明確化した研究課題の発表①	文献やフィールドワーク・実習での成果から得た見解から明確化した研究課題を発表し、質疑応答に対応する。
第15回	明確化した研究課題の発表②	文献やフィールドワーク・実習での成果から得た見解から明確化した研究課題を発表し、質疑応答に対応する。

【事前・事後学習課題】

事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点を持ち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする。

「定期試験は実施しない」

〔評価方法（基準）〕

平常点（出席状況、作成資料、討議内容など）60%、フィールドワーク・実習状況を40%の割合で評価する。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業にて適宜紹介する		
参考書	授業にて適宜紹介する		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
療養支援看護学援助特論	2年次・前期	2単位 (選択)	稲垣美紀 森谷利香 松田千登勢 竹下裕子 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

療養生活をおくる人々とその家族への看護など、人々のQOL向上にむけた看護援助に関する問題を取り上げる。それらの問題の背景と現状、課題を文献および実践事例等を通して把握し、ケアの質向上にむけた看護活動のあり方を探究する。また、看護実践における倫理的課題の検討および看護職の役割について考察する。

【到達目標】

- ① 療養生活をおくる人々と家族における、看護援助に関する問題、その背景、現状および課題を明らかにすることができる。
- ② ケアの質の向上に向けた看護活動のあり方について述べるができる。
- ③ 看護実践における倫理的課題について討議し、看護職の役割を考察することができる。

【授業方法】

原則として、授業計画に基づく授業を展開する。文献検討、プレゼンテーション、討議のすべてにおいて主体的に学修する。既習の理論やエビデンスについて文献検討を行う。文献検討に使用する文献は、最新かつ質の高い者を選び、また事例検討は学生の経験に基づくものとし、その理解を助ける。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	療養生活をおくる人々への看護援助	授業オリエンテーションおよび地域・療養生活支援看護における既習の理論やエビデンスを活用し、文献および事例検討のために必要な視点について検討する。(担当：森谷)
第2回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、その背景や周辺のテーマについて検討する。(担当：森谷)
第3回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、関連する理論を文献検討する。(担当：森谷)
第4回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、関連する理論を用いて事例検討する。(担当：森谷)
第5回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、それらに対する支援方法について文献検討する。(担当：稲垣)
第6回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、それらに対する支援方法について事例検討する。(担当：稲垣)
第7回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、それらに対する支援方法への評価について文献検討する。(担当：稲垣)
第8回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、それらに対する支援方法への評価について事例検討する。(担当：稲垣)
第9回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行ったうえで、現状の課題を検討する。(担当：竹下)
第10回	療養生活をおくる人々への看護援助	問題となるテーマを取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行ったうえで、現状の課題と今後の展望を発表する。(担当：竹下)
第11回	療養生活をおくる人々への看護実践における倫理的課題	問題となるテーマを取り上げ、看護実践に関する倫理的課題について、文献検討、事例検討を行う。(担当：松田)
第12回	療養生活をおくる人々への看護実践における倫理的課題	問題となるテーマを取り上げ、看護実践に関する倫理的課題について検討した結果を実践において、どのように応用、活用するかを討議する。(担当：松田)
第13回	療養生活をおくる人々への看護実践における倫理的課題	問題となるテーマを取り上げ、看護実践に関する倫理的課題について討議した内容をプレゼンテーションする。(担当：松田)
第14回	まとめ	療養生活をおくる人々・家族への看護援助について、支援の現状の課題、今後への展望についてまとめ、学生各自がプレゼンテーションする。(担当：森谷、松田、稲垣、竹下)
第15回	まとめ	療養生活をおくる人々・家族への看護援助について、支援の現状の課題、今後への展望についての発表に基づき討議する。(担当：森谷、松田、稲垣、竹下)
【事前・事後学習課題】		
学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点を持ち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。		
「定期試験は実施しない」		

【評価方法（基準）】

参加態度、プレゼンテーション、討議内容、レポートなどを総合して評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業の中で適宜紹介する。		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
地域支援看護学特論	1年次・前期	2単位 (選択)	田中結華、富永真己、眞野祥子 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

地域あるいは地域における各施設などさまざまな場で生活する高齢者、健康者、療養児・者とその家族を理解し、支援するための概念や理論を踏まえ、実践と研究への適応を検討し、多様な課題を持つ人々への看護活動に関する研究への関心と探究心を養う。

[到達目標]

- ① 看護の対象としての個人、家族、集団、地域を理解するための概念、理論を、論文を通して検討し、研究への関心、探究心を養う。
- ② 個人、家族、集団、地域における多様な課題への看護活動に関する理論を、論文を通して検討し、研究への関心、探究心を養う。
- ③ 看護の対象および家族の健康の維持・増進、支援に関する実践と研究理論を、論文を通して検討し、研究への関心、探究心を養う。

[授業方法]

原則として、授業計画に基づく授業を展開する。授業はゼミ形式で行い、各テーマに沿って学生が主体的に選択した文献をもとに発表し、討議を行う。討議では、実践と研究への適用に向けて学生各自が思考して発言を行い、議論を活性化させる。実際の事例を理論に基づきながら整理し、研究的視点から解釈・吟味して自己の考えをまとめ、問題意識を明確化するとともに、最新の研究成果を紹介するなどする。

[授業計画]

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	オリエンテーション	授業オリエンテーションを行う。看護の対象としての個人、家族、集団、地域を理解するために必要な視点について検討する。(担当：田中、富永、眞野)
第2回	地域看護の対象と看護活動を理解する	個人、家族、集団、地域を対象とする看護活動と看護職の役割について理解を深める。(担当：富永)
第3回	集団、地域を対象とする看護活動に活用する理論と方法論	集団、地域を対象とする看護活動を理解するための理論について学び、その理解を深める。(担当：富永)
第4回	個人・家族を対象とする看護の理論と方法	個人・家族を対象とする看護活動を理解するための理論について学び、その理解を深める。(担当：富永)
第5回	個人・家族・集団を対象とする看護の理論と実際	個人・家族・集団を対象とする看護活動に関する理論について討議し、理論と実際との関連、研究への適応を探究する。(担当：富永)
第6回	在宅で療養する人々とその家族の理解	在宅で療養する人々と家族を対象とする看護活動と看護職の役割について理解を深める。(担当：田中)
第7回	在宅で療養する人々とその家族に関する理論	在宅で療養する人々と家族に関連する理論について討議し、理解を深める。(担当：田中)
第8回	在宅で療養する人々とその家族に関する実践	在宅で療養する人々と家族に関連する実践について討議し、理解を深める。(担当：田中)
第9回	在宅で療養する人々とその家族に関する研究動向	在宅で療養する人々と家族に関連する研究の動向について討議し、理解を深める。(担当：田中)
第10回	地域で生活する精神障害者とその家族の理解	精神障害を持ち地域で生活する人々と家族を対象とする看護活動と看護職の役割について学び、理解を深める。(担当：眞野)
第11回	地域で生活する精神障害者とその家族に関する理論	精神障害を持ち地域で生活する人々と家族に関連する理論について学び、理解を深める。(担当：眞野)
第12回	地域で生活する精神障害者とその家族に関する看護実践	精神障害を持ち地域で生活する人々と家族に関連する看護実践について学び、理解を深める。(担当：眞野)
第13回	地域で生活する精神障害者とその家族に関する研究動向	精神障害を持ち地域で生活する人々と家族に関連する研究の動向について学び、理解を深める。(担当：眞野)
第14回	自己の関心のあるテーマについて理論と実際の検討(1)	今までの対象者理解を踏まえ、理論および実際について整理し、発表する。(担当：田中、富永、眞野)
第15回	自己の関心のあるテーマについて理論と実際の検討(2)	今までの対象者理解を踏まえ、理論および実際についての発表をもとに討議を行う。(担当：田中、富永、眞野)

[事前・事後学習課題]

学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点を持ち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする。

「定期試験は実施しない」

[評価方法（基準）]

参加態度、プレゼンテーション、討議内容、レポートなどを総合して評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業で適宜提示する。		
参考書	授業で適宜提示する。		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
地域支援看護学演習	1年次・後期	2単位 (選択)	田中結華、富永真己、 眞野祥子、山本智津子 (担当形態：複数)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

看護の対象としての個人、家族、集団、地域における健康課題を文献によって明らかにし、その支援方法の検討および評価を行う。関心のあるテーマを焦点づけ、疑問を明確にしてフィールドワーク・実習を行い、地域住民、療養する人々とその家族、集団、地域におきる現象を把握する。これらもとに、対象者が抱える困難や問題を、社会情勢なども含めた背景を、関連する様々な概念や理論を用いて深く思索し、研究課題を明確にする。

【到達目標】

- ① 各学生の関心領域に焦点を当てて文献検索を行ない、ゼミ形式での文献検討、プレゼンテーション、討議を通して研究疑問を明確化できる。
- ② 研究疑問にそったフィールドワーク・実習を学生が計画・立案、実施できる
- ③ 文献検討、フィールドワーク・実習から得た成果から得た見解をまとめ、プレゼンテーション、討議を通して研究課題を明確にできる。

【授業方法】

協力機関の指導の下、1日4コマ程度のフィールドワーク・実習をシラバスの計画に沿って行う。フィールドワークは、主に臨地に赴くが、リモートで行う各活動等を含むものとする。第1回、第14回、第15回は複数教員での授業、第3回～第13回は指導教員によるクラスごとに授業を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	オリエンテーション	本授業のオリエンテーションを行い、自らの関心領域、研究疑問についてプレゼンテーションを行う。
第2回	研究疑問についての文献検討	研究疑問についての文献検討を行い、研究疑問を焦点化する。
第3回	研究疑問についての文献検討	研究疑問についての文献検討を行い、研究疑問を焦点化する。
第4回	フィールドワークの計画	研究疑問に基づくフィールドワークの計画を立案する。
第5回	フィールドワークの計画	研究疑問に基づくフィールドワークの計画を立案する。
第6回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークを実施する。
第7回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークを実施する。
第8回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークを実施する。
第9回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークを実施する。
第10回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークの実施を通して、興味・関心のあるテーマを掘り下げる。
第11回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークの実施を通して、興味・関心のあるテーマを掘り下げ考察する。
第12回	フィールドワークの検討	フィールドワークの成果を検討し、興味・関心のあるテーマから研究疑問を焦点化する。
第13回	フィールドワークの検討	フィールドワークの成果を検討し、研究疑問を焦点化し、研究課題として考察する。
第14回	研究課題の検討(1)	文献検討やフィールドワークを実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確化する。
第15回	研究課題の検討(2)	文献検討やフィールドワークを実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確化する。
【事前・事後学習課題】		
事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点をもち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする。		
【「定期試験は実施しない」】		

【評価方法（基準）】

参加態度、プレゼンテーション、討議内容、レポートなどを総合して評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業で適宜提示する。		
参考書	授業で適宜提示する。		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
地域支援看護学援助特論	1年次・前期	2単位 (選択)	田中結華、富永真己、眞野祥子 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

地域での健康生活および療養生活をおくる人々とその家族への看護など、地域における個人、家族、集団、地域を対象とし、人々のQOL向上にむけた看護援助に関する問題を取り上げる。それらの問題の背景と現状、課題を文献および実践事例等を通して把握し、ケアの質向上にむけた看護活動のあり方を探究する。また、看護実践における倫理的課題の検討および看護職の役割について考察する。

[到達目標]

- ① 地域での健康生活および療養生活をおくる人々と家族、集団、地域における、看護援助に関する問題、その背景、現状および課題を明らかにすることができる。
- ② ケアの質の向上に向けた看護活動のあり方について述べるることができる。
- ③ 看護実践における倫理的課題について討議し、看護職の役割を考察することができる。

[授業方法]

原則として、授業計画に基づく授業を展開する。授業はゼミ形式で行い、各テーマに沿って学生が主体的に選択した文献をもとに発表し、討議を行う。討議では、実践と研究への適用に向けて学生各自が思考して発言を行い、議論を活性化させる。実際の事例を理論に基づきながら整理し、研究的視点から解釈・吟味して自己の考えをまとめ、問題意識を明確化するとともに、最新の研究成果を紹介するなどする。

[授業計画]

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	オリエンテーション	授業のオリエンテーションを行う。地域支援看護における既習の理論やエビデンスを活用し、文献および事例検討するために必要な視点について検討する。(担当：田中、富永、眞野)
第2回	地域で療養する人々への看護援助 (1)	地域で療養する人々への看護援助に関する問題をテーマとして取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討を行う。(担当：田中)
第3回	地域で療養する人々への看護援助 (2)	地域で療養する人々への看護援助に関する問題をテーマとして取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討の結果を踏まえ、看護研究における課題を考察する。(担当：田中)
第4回	地域で療養する人々への看護援助 (3)	地域で療養する人々への看護援助に関する問題の中でも、昨今注目されるテーマを取り上げ、そのテーマに関する看護研究のアプローチ方法について考察する。(担当：田中)
第5回	地域で療養する人々への看護援助 (4)	地域で療養する人々への看護援助に関する看護研究の知見を通して、倫理的課題と看護職の役割について考察する。(担当：田中)
第6回	精神疾患を持ち地域で生活する人々への援助 (1)	精神疾患をもち地域で生活する人々への看護援助に関する問題をテーマとして取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討を行う。(担当：眞野)
第7回	精神疾患を持ち地域で生活する人々への援助 (2)	精神疾患をもち地域で生活する人々への看護援助に関する問題をテーマとして取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討の結果を踏まえ、看護研究における課題を考察する。(担当：眞野)
第8回	精神疾患を持ち地域で生活する人々への援助 (3)	精神疾患をもち地域で生活する人々への看護援助に関する問題の中でも、昨今注目されているテーマを取り上げ、そのテーマに関する看護研究のアプローチ方法について考察する。(担当：眞野)
第9回	精神疾患を持ち地域で生活する人々への援助 (4)	精神疾患をもち地域で生活する人々への看護援助に関する看護研究の知見を通して、倫理的課題と看護職の役割について考察する。(担当：眞野)
第10回	地域で健康生活を送る人々への看護 (1)	地域で生活する人々、中でも地域ヘルスケアシステムの要である看護職・介護職の個人の健康課題をテーマとして取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討を行う。(担当：富永)
第11回	地域で健康生活を送る人々への看護 (2)	地域ヘルスケアシステムの要である看護職・介護職の健康に関する組織の課題をテーマとして取り上げ、快適職場づくりを目指した看護研究について、文献検討を行う。(担当：富永)
第12回	地域で健康生活を送る人々への看護 (3)	地域の看護職・介護職の健康と組織の課題が、看護職・介護職のみならず提供するケアの質に及ぼす影響について、文献検討を通して検討し、アプローチ方法について考察する。(担当：富永)
第13回	地域で健康生活を送る人々への看護 (4)	地域の看護職・介護職の健康と組織の課題に関する解決と、提供するケアの質の向上を目指した看護研究について、倫理的課題と看護職の役割とともに考察する。(担当：富永)
第14回	自己の関心のあるテーマについて理論と実際の検討 (1)	今後のケアの質向上にむけた看護活動のあり方を踏まえ、理論および実際について整理し、発表する。(担当：田中、富永、眞野)
第15回	自己の関心のあるテーマについて理論と実際の検討 (2)	今後のケアの質向上にむけた看護活動のあり方を踏まえ、理論および実際についての発表をもとに討議を行う。(担当：田中、富永、眞野)

[事前・事後学習課題]

学習効果高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点を持ち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。事前・事後学習の総時間数はおよそ 60 時間程度とする。

「定期試験は実施しない」

[評価方法 (基準)]

参加態度、プレゼンテーション、討議内容、レポートなどを総合して評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業で適宜提示する。		
参考書	授業で適宜提示する。		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
次世代発達支援看護学特論	1年次・前期	2単位 (選択)	鎌田 佳奈美・池田 友美・井田 歩美 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

ライフサイクル全般にわたる専門的な看護援助、健康増進と健康に関する課題を解決するために、Evidence based Medicine に基づいた知見を学修する。さらに、発達理論、家族関係理論、セルフケア理論など、子どもと家族に関する諸理論や概念を学修し、子どもの文化的背景、社会状況や生活および養育環境との関係の中で子どもと家族の理解を深める。

【到達目標】

- (1) ライフサイクル各期にある対象の健康課題について理解を深め、健康教育、支援のあり方について学ぶ。
- (2) 子どもと家族を取り巻く社会状況や文化的背景について学修する。また、子どもの権利や発達の諸理論、それに関連する概念の理解を深め、看護への適用を考察する。
- (3) 家族の理解と支援を探究するための諸理論や概念について理解を深め、看護への適用を考察する。
- (4) セルフケア理論、認知行動理論、それらに関連する概念について理解を深め、看護への適用を考察する。

【授業方法】

原則として、授業計画に基づき対面または ICT を利用した遠隔授業を行う。授業計画に沿って学生にレジュメ作成、プレゼンテーションを求める。テーマ内容についてできるだけ深く学修できるよう、内容について議論を行う。学生が理論と実践を結び付けられるように、自身が経験した事例を用いて、既習の理論を適用して検討する。新たな疑問点が生じた場合には、次回の授業の課題とし理解を深める。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	子どもと家族を取り巻く社会・文化	子どもと家族の発達に影響を及ぼす社会環境・文化的背景 (担当：池田)
第2回	子どもと家族の権利と看護職の役割	子どもの権利に関する歴史的変遷と権利擁護、看護職の役割 (担当：池田)
第3回	発達理論（1）	ピアジェ認知発達理論と看護への適用 (担当：池田)
第4回	発達理論（2）	エリクソンの心理社会的発達理論（乳児期～思春期）と看護への適用 (担当：池田)
第5回	発達理論（3）	発達理論を用いた事例検討と看護への適用 (担当：池田)
第6回	家族関係理論（1）	アタッチメント理論と看護への適用 (担当：鎌田)
第7回	家族関係理論（2）	アタッチメント理論を用いた事例検討 (担当：鎌田)
第8回	家族関係理論（3）	家族システム理論、家族関係理論と看護への適用 (担当：鎌田)
第9回	家族関係理論（4）	家族システム理論、家族関係理論を用いた事例検討 (担当：鎌田)
第10回	子どもと家族支援のための理論（1）	認知行動理論と看護への適用 (担当：鎌田)
第11回	子どもと家族支援のための理論（2）	セルフケア理論と看護への適用 (担当：井田)
第12回	ライフステージ各期の健康課題と支援（1）	思春期における健康課題と具体的支援 (担当：井田)
第13回	ライフステージ各期の健康課題と支援（2）	成熟期における健康課題と具体的支援 (担当：井田)
第14回	ライフステージ各期の健康課題と支援（3）	更年期における健康課題と具体的支援 (担当：井田)
第15回	ライフステージ各期の健康課題と支援（4）	老年期における健康課題と具体的支援 (担当：井田)

【事前・事後学習課題】

各テーマに沿って、レジュメを作成し、プレゼンテーションの準備を行う事前・事後学習の総時間は60時間程度とする。

「定期試験は実施しない」

[評価方法 (基準)]

作成したレジュメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容 (50%)、課題レポート (50%) など、総合的に評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	授業の中で適宜紹介する		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
次世代発達支援看護学演習	1年次・後期	2単位 (選択)	鎌田 佳奈美・池田 友美・井田 歩美 名草 みどり・亀田 直子 (担当形態：複数)
科目：次世代発達支援看護学演習	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

女性や子どもとその家族の健康保持・増進および疾病予防、健康回復にむけた実践における課題、専門職のケア向上への教育に関する課題など、文献検索やクリティーク・プレゼンテーションや討議を通して疑問を明確にする。さらに、フィールドワーク・実習等実践活動を行い、疑問や問題としていることを研究課題へと発展できる能力を養う。

[到達目標]

- (1) 子どもと家族のケアおよび女性に関する自らの研究疑問をプレゼンテーションできる。
- (2) 研究疑問を明らかにするためにフィールドワークを計画できる
- (3) 研究疑問から明確な研究課題へと焦点化できる。
- (4) 研究課題をわかりやすく説明できる。

[授業方法]

原則として、授業計画に基づき対面または遠隔で実施する。文献検討、フィールドワーク・実習、プレゼンテーション、討議のすべてにおいて、深く学修するよう、内容について討議を行う。また、学修の各段階において、きめ細やかな指導を行い、知識や内容を整理し、課題を明確にできるよう指導する。フィールドワーク・実習は『枚方市保健所』など健康医療都市ひらかたコンソーシアムに参加している機関あるいは教育研究にかかる連携協定締結している病院や関連中学校・高等学校などを中心とした臨地での実践を行う。いずれも平日、1日4コマ程度をシラバスの計画に沿って実施する。

[授業計画]

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	研究疑問の明確化	履修者自身の経験から、関心のあるテーマや領域についてプレゼンテーションする。
第2回	研究疑問についての文献検討	研究疑問についての文献検討を行い、研究疑問を焦点化する。
第3回	研究疑問についての文献検討	研究疑問についての文献検討を行い、研究疑問を焦点化する。
第4回	フィールドワークの計画	研究疑問に基づくフィールドワークの計画を立案する。
第5回	フィールドワークの計画	研究疑問に基づくフィールドワークの計画を立案する。
第6回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークを実施する。
第7回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークを実施する。
第8回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークを実施する。
第9回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークを実施する。
第10回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークの実施を通して、興味・関心のあるテーマを掘り下げる。
第11回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークの実施を通して、興味・関心のあるテーマを掘り下げ考察する。
第12回	フィールドワークの検討	フィールドワークの成果を検討し、興味・関心のあるテーマから研究疑問を焦点化する。
第13回	フィールドワークの検討	フィールドワークの成果を検討し、研究疑問を焦点化し、研究課題として考察する。
第14回	研究課題の検討 (1)	文献検討やフィールドワークを実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確化する。
第15回	研究課題の検討 (2)	文献検討やフィールドワークを実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確化する。

[事前・事後学習課題]

<p>文献検討の内容のレジュメおよびプレゼンテーション準備を行う。</p> <p>事前・事後学習の総時間数はおよそ 60 時間程度とする学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点をもち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。事前・事後学習の総時間数はおよそ 60 時間程度とする。</p>
「定期試験は実施しない」

【評価方法（基準）】

作成したレジュメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容（30%）、課題レポート（70%）など、総合的に評価する。

【教 材】

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業内で適宜紹介する		
参考書	授業内で適宜紹介する		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
次世代発達支援看護学援助特論	2年次・前期	2単位 (選択)	鎌田 佳奈美・池田 友美・井田 歩美 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

リプロダクティブ・ヘルスに関する看護実践方法および子どもと家族の発達促進、QOL向上のための看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献と事例展開を通して検討する。さらに、これらの看護実践に伴う対象のアドボカシーへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割を活動についても考察する。

【到達目標】

- (1) リプロダクティブ・ヘルスに関する看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献検討と事例展開をとおして検討する。
- (2) 既習の理論やエビデンスを用いて、発達障害の子どもと家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。
- (3) 既習の理論やエビデンスを用いて、虐待を受けた子どもや不適切な養育の家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。
- (4) 既習の理論やエビデンスを用いて、重症心身障害の子どもと家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。
- (5) 看護援助に伴う対象者のアドボカシーへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割と活動について考察する。

【授業方法】

原則として、授業計画に基づき、オムニバス形式でICTを活用した遠隔授業を行う。授業テーマに沿って学生にレジメの作成およびプレゼンテーションを求める。テーマ内容についてできるだけ深く学修できるよう、内容について議論を行う。議論の内容について、新たな疑問点が生じた場合には、次の授業の課題と理解を深める。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	子どものヘルスケア	ヘルスケアの概念と具体的支援について (担当：池田)
第2回	重症心身障害児の概念と権利	重症心身障害児の概念と権利について (担当：池田)
第3回	重症心身障害児を育てる家族の心理とその支援	重症心身障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携 重症心身障害児とその家族に対する看護の課題と展望 (担当：池田)
第4回	発達障害の特性理解	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害に関する基本的知識 (担当：池田)
第5回	発達障害児とその家族のアセスメントとその支援	発達障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携 発達障害児とその家族に対する看護の課題と展望 (担当：池田)
第6回	子ども虐待とその現状	子ども虐待の歴史と現状、法的理解、他機関連携、看護職の役割 (事例検討を含む) (担当：鎌田)
第7回	養育上の支援を必要とする子どものアセスメント	養育上の支援を必要とする子どものアセスメント (担当：鎌田)
第8回	養育上の支援を必要とする子どもへの支援	不適切な養育状況にある子どもへの治療的ケア (担当：鎌田)
第9回	養育上の支援を必要とする家族のアセスメント	養育上支援を必要とする家族のアセスメント (担当：鎌田)
第10回	養育上の支援を必要とする家族への支援	家族への養育支援プログラム (担当：鎌田)
第11回	プレコンセプションケア	プレコンセプションケアと包括的性教育 (担当：井田)
第12回	SOGI と LGBTQ+	性的マイノリティへの対応について (担当：井田)
第13回	出生前診断と着床前診断を受ける女性と家族への支援	出生前診断と着床前診断における倫理的課題 (担当：井田)
第14回	高度生殖補助医療を受ける女性と家族への支援	高度生殖補助医療における倫理的課題 (担当：井田)

第15回	ペリネイタル・ロスにおける支援	ペリネイタル・ロスを経験した対象者の心理とケア (担当：井田)
[事前・事後学習課題]		
テーマに関連する論文や資料を検討し、プレゼンテーション準備を行う事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間とする。		
[定期試験は実施しない]		

[評価方法（基準）]

作成したレジュメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容（50%）、課題レポート（50%）など総合的に評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	授業内で適宜紹介する		